

大阪医科大学学報

第35号 平成10年2月



冬の空

◆目 次◆

規程改正	2~3
人事 { 採用、退職、昇任、異動 } ...	4~5
{ 休職・復職、委嘱・解職 }	
{ 海外渡航 }	
学位記授与	6~7
補助金関係	8
トビリシ医科大学長来学	8
医学会講演会・同和教育特別講義	9
教室紹介	10~11
海外出張記	11~12
医学の散歩道	12~13
関連病院長会議	13
学内行事	14
会議・行事予定	14~16
保健管理室からのお知らせ	17~19
俳句	19
たかつき散策	20

大阪医科大学大学院学則の一部改正について

大阪医科大学大学院学則の一部が、次のとおり改正されました。

(関係条文新旧対照表)

新	旧
<p>第八章 授業料その他の納入金</p> <p>第23条 医学研究科に入学を志願する者は入学検定料として、<u>3万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の2 医学研究科に入学を許可された者は入学金として、23万円を納付しなければならない。</p> <p>第23条の3 医学研究科の授業料は年額<u>60万円</u>、実習料は年額<u>20万円</u>とする。</p> <p>なお、委託生、聴講生及び外国人学生の授業料に関する規定は別にこれを定める。</p>	<p>第八章 授業料その他の納入金</p> <p>第23条 医学研究科に入学を志願する者は入学検定料として、<u>2万円</u>を納付しなければならない。</p> <p>第23条の2 同 左</p> <p>第23条の3 医学研究科の授業料は年額<u>27万円</u>、実習料は年額<u>15万円</u>とする。</p> <p>なお、委託生、聴講生及び外国人学生の授業料に関する規定は別にこれを定める。</p>
<p>第40条 <u>本大学院学則に定めるものの外、大学院学生</u> <u>に関して必要な事項は、本大学学則第8条から第10</u> <u>条まで、第17条第1号、第34条、第35条及び第39条</u> <u>の規定を準用する。</u></p>	<p>第40条 <u>本大学院学則に定めるものの外、大学院学生</u> <u>に関して必要な事項は、本大学学則第3条から第5</u> <u>条まで、第24条から第27条まで、第29条、第34条、</u> <u>第37条から第39条まで、第41条、第42条及び第44条</u> <u>の規定を準用する。</u></p>
<p>附 則</p> <p><u>この改正は、平成10年4月1日から施行する。</u></p> <p><u>但し、第23条の規定は、平成10年度の入学者選抜試</u> <u>験から適用し、平成9年度以前から在学する者につい</u> <u>ては、改正後の第23条の3の規定にかかわらず、なお</u> <u>従前の例による。</u></p>	

大阪医科大学大学院学位規程の一部改正について

大阪医科大学大学院学位規程の一部が、次のとおり改正されました。

（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p style="text-align: center;">（課程を経ない者の試問）</p> <p>第15条 第3条第2項に規定する試問は、口頭または筆答によるものとし、専攻学術に関し、博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ研究を指導する能力を有するか否かについて行う。この場合外国語については研究科委員会に於て特別の事由があると認めた場合を除き、2種類を課するものとする。</p> <p>2 外国語試験の検定料は2万円とする。</p> <p><u>又一旦納入した検定料は如何なる理由があっても還付しない。</u></p> <p>3 博士課程に於て所定の年限在学し、所定の単位を修得し、退学した者が退学した日から3年以内に論文を提出したときは、前条の試問を免除することができる。</p>	<p style="text-align: center;">（課程を経ない者の試問）</p> <p>第15条</p> <p style="text-align: center;">同 左</p> <p>2 博士課程に於て所定の年限在学し、所定の単位を修得し、退学した者が退学した日から3年以内に論文を提出したときは、前項の試問を免除することができる。</p>
<p style="text-align: center;">（審査手続料、審査料及び学位記再交付手数料）</p> <p>第24条 学位論文の審査手続料並びに審査料及び学位記の再交付手数料は左の通りとする。</p> <p>一、審査手続料 金 <u>5万円也</u></p> <p>二、審査料</p> <p style="padding-left: 20px;">イ、課程を経ない者で本学に籍を置き本学教授の指導を受けた者 金 <u>30万円也</u></p> <p style="padding-left: 20px;">ロ、課程を経ない者でイ以外の者 金 <u>50万円也</u></p> <p>三、学位記再交付手数料 金 <u>1万円也</u></p>	<p style="text-align: center;">（審査手続料、審査料及び学位記再交付手数料）</p> <p>第24条 学位論文の審査手続料並びに審査料及び学位記の再交付手数料は左の通りとする。</p> <p>一、審査手続料 金 <u>1万円也</u></p> <p>二、審査料</p> <p style="padding-left: 20px;">イ、課程を経ない者で本学に籍を置き本学の教授の指導を受けた者 金 <u>5万円也</u></p> <p style="padding-left: 20px;">ロ、課程を経ない者でイ以外の者 金 <u>10万円也</u></p> <p>三、学位記再交付手数料 金 <u>1千円也</u></p>
<p>附 則</p> <p><u>この改正は、平成10年4月1日から施行する。</u></p>	

人 事

〔採用〕

講 師	吉田龍太郎 (生理学Ⅱ)	12.16
助 手	今中 政支 (耳鼻咽喉科学)	1. 1
看 護 婦	堀本 智子 (病院看護部)	〃
助 手	東山 俊祐 (産婦人科学)	1.16
〃	宮本 貴史 (脳神経外科学)	2. 1
看 護 婦	植田 陽子 (病院看護部)	〃

〔退職〕

技 術 員	上楯規子 (輸 血 室)	11.30
〃	木下 香里 (〃)	〃
事 務 員	堤 佐智代 (病院薬剤部)	12.15
看 護 婦	柴崎かほり (病院看護部)	12.24
講 師	垣鏑 典也 (耳鼻咽喉科学)	12.31
事 務 員	咲間 和美 (第一病理学教室)	〃
〃	近藤加奈子 (病院事務部 医事第二課)	〃
〃	前田 恒子 (中央検査部)	〃
看護事務員	藤田 智子 (病院看護部)	〃
技 術 員	田中 眞澄 (病院事務部 栄養給食課)	〃
〃	大竹美智子 (中央検査部)	〃
技術補助員	堀 芳枝 (耳鼻咽喉科)	〃
〃	川本 邦子 (内 視 鏡 室)	〃
看 護 婦	齊藤美智子 (病院看護部)	〃
助 手	小笠原尚子 (産婦人科学)	1.15
講 師	森下 忍 (整形外科学)	1.31
助 手	松川 雅則 (脳神経外科学)	〃
事 務 員	根津 純子 (病院事務部 管 理 課)	〃
技 術 員	藤原 由美 (病院薬剤部)	〃
看 護 婦	柚木さち子 (病院看護部)	〃

〔昇任〕

生理学Ⅱ講師	森 禎章 (助 手)	11.16
口腔外科学講師	杉本 勝一 (〃)	12.16
事務局次長兼 病院事務部長兼 管理課長	常川 治男 (病院事務部長 兼管理課長)	1. 1
事務局次長兼 病院薬剤部長	古家 鞆弘 (病院薬剤部長)	〃
事務局次長兼 看護部長	勢川瑠美子 (病院看護部長)	〃
病院医療情報部 講 師	山本 隆一 (中央検査部助手)	1.16
病院医療情報部 企画課長	岩本 暢泰 (病院中央検査部 技師長代理)	〃

〔異動〕

第一病理学教室 事務員	河井 紀乃 (総務部庶務課 事務員)	1.16
病院医療情報部 事務員	岩本 暢泰 (病院中央検査部 技 術 員)	〃

〔休職・復職〕

(復 職)		
助 手	水口 博之 (医 化 学)	11.16
(休 職)		
助 教 授	田中 嘉雄 (形成外科学)	1. 1

〔委嘱・解嘱〕

(委 嘱)		
学内講師		
助 手	高井 真司 (薬 理 学)	1.16
〃	伊藤 尚 (耳鼻咽喉科学)	〃

シラバス作成委員会委員長

教 授	谷川 允彦 (一般・消化器外科学)	11.12
-----	-------------------	-------

シラバス作成委員会委員

教 授	田中 正寛 (物 理 学)	11.12
〃	勝岡 洋治 (泌尿器科学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃
助 教 授	末吉 公三 (放射線医学)	〃
〃	後山 尚久 (産婦人科学)	〃
診療助教授	近藤敬一郎 (胸部外科学)	〃
講 師	宮本 学 (生理学Ⅰ)	〃

内科学シラバス作成委員会委員

学生部長 教 授	島田 眞久 (解剖学Ⅱ)	11.26
学生部教務委員長 教 授	大槻 勝紀 (〃 Ⅰ)	〃
教 授	大澤 伸昭 (内 科 学 Ⅰ)	〃
〃	勝 健一 (〃 Ⅱ)	〃
〃	河村慧四郎 (〃 Ⅲ)	〃
〃	勝岡 洋治 (泌尿器外科学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃

附属病院長選挙管理委員会委員

教 授	佐野 浩一 (微生物学)	12.10
〃	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学)	〃
助 教 授	麻田 邦夫 (胸部外科学)	〃
講 師	矢野 貴人 (医 化 学)	〃
助 手	浮村 聡 (内 科 学 Ⅲ)	〃
〃	平井 景 (泌尿器科学)	〃
病院事務部長代理	平野 勝 (病院事務部)	〃
〃	竹村喜一郎 (病院薬剤部)	〃
看護副部長	小林千恵子 (病院看護部)	〃

平成9年度（第Ⅱ回）学位記授与

平成9年度第Ⅱ回学位審査には、大学院医学研究科終了による者6名、論文提出による者13名の申請があり、所定の審査が行われました。

その結果、平成9年11月26日付をもって、大学院第4学年在籍中の2名を除く17名が合格し、翌27日（木）午後2時から第2会議室において学長及び指導教授出席の下、授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第549号	原 直 樹	Characterization of nociceptin hyperalgesia and allodynia in conscious mice (ノシセプチンのマウス髄腔内投与による痛覚過敏反応とアロディニアに関する研究)
甲第550号	小 森 剛	Evaluation of Uptake and Release of Technetium-99m MIBI SPECT of Pulmonary and Mediastinal Lesions (肺、縦隔病変における Tc-99m MIBI の集積および排泄に関する臨床的検討)
甲第551号	市 村 善 宣	頸部椎間板ヘルニアに対する経皮的レーザー椎間板減圧術 －実験的研究および臨床成績－ (Percutaneous Laser Disc Decompression for the Cervical Disc herniation －Experimental Studies and Early Clinical Results－)
甲第552号	福 西 恵 一	エンドトキシンによる肺傷害と肺微小循環障害との関係について (Role of pulmonary microcirculatory disturbance in development of lung injury in endotoxemia)
乙第770号	伊 藤 充	Incomplete thyrotroph suppression determined by third generation thyrotropin assay in subacute thyroiditis compared to silent thyroiditis or hyperthyroid Graves' disease (無痛性甲状腺炎およびバセドウ病甲状腺機能亢進症と比較して不完全であることが判明した亜急性甲状腺炎における TSH 分泌抑制について －第3世代測定法による検討－)
乙第771号	亀 谷 英 輝	妊娠に伴う末梢血好中球 Chemiluminescence の変動とその意義 (Change in peripheral blood neutrophil chemiluminescence during pregnancy)
乙第772号	金 原 稔 幸	Ultrastructural changes during myocardial hypertrophy and its regression: Long-term effects of nifedipine in adult spontaneously hypertensive rats (心筋の肥大とその退縮における微細構造変化: 成熟高血圧自然発症ラットにおけるニフェジピン長期投与の効果について)
乙第773号	宗 宮 浩 一	Plasma and urinary heart-type cytoplasmic fatty acid-binding protein in coronary occlusion and reperfusion induced myocardial injury model (冠動脈虚血・再灌流モデルにおける、血漿・尿中心筋型脂肪酸結合蛋白)
乙第774号	安 田 守 孝	MR 画像の基づく脳モデルの作製 (Fabrication of 3-dimensional Plastic Brain Model from MRI)
乙第775号	御子柴 今 雄	イヌ頸動脈バルーン傷害モデルを用いたトラニラストによる内膜肥厚抑制効果とキマーゼ依存性アンジオテンシンⅡの役割の解析 (Inhibitory effects of tranilast on neointima formation in canine balloon-injured carotid arteries: pathophysiological functions of chymase-dependent angiotensin II)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第776号	宇都宮 啓 太	糖尿病における I-123-MIBG 心筋シンチグラフィー： アルドース還元酵素阻害剤とビタミンB12の治療効果について (I-123-MIBG cardiac scintigraphy in patients with diabetes mellitus： therapeutic effects of aldose reductase inhibitor and vitamin B12)
乙第777号	山 本 隆 一	広域コンピュータネットワーク上での診療情報交換のための暗号化および認証機構に関する研究 (A delegation system of encryption and certification for patient record interchange over a wide area network)
乙第778号	平 松 昌 子	Cecal ligation and puncture (CLP) induces apoptosis in thymus, spleen, lung and gut by an endotoxin and TNF-independent pathway (盲腸結紮穿孔 (CLP) による敗血症モデルはエンドトキシン、TNF 非依存症に胸腺、脾、肺、腸管にアポトーシスを誘導する)
乙第779号	石 田 志 門	浸潤型胸腺腫合併重症筋無力症に対する胸腺摘出術後放射線療法の臨床症状および免疫学的所見への影響 (Changes of clinical and immunological status after post-thymectomized irradiation for invasive thymoma with myasthenia gravis)
乙第780号	高 俊 彦	レーザードップラー血流波形の意義と糖尿病患者における自律神経機能検査としての臨床応用 (The analysis of skin blood flow by laser doppler flowmeter for the assessment of autonomic function in patients with diabetes)
乙第781号	猪 木 千 春	Image Analysis and Ultrastructural Detection of DNA Strand Breaks in Human Endometrium by <i>In Situ</i> End-Labeling Techniques (電顕的 ISEL 法により同定された子宮内膜の断片化 DNA の解析)
乙第782号	鶴 長 建 充	Multivariate analysis of relationships between cellular structural components of cultured cells derived from gynecologic organs to determine normalcy or malignancy, and original tissue type (婦人科組織由来培養細胞の正常、悪性、および由来組織の判別に関わる細胞構築成分の多変量解析)



文部省補助金の内定について

平成9年度 私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備整備費）

（単位：千円）

設 備 名	区 分	申請事業費	補助内定額
組織、細胞内生物活性物質イメージングシステム	特別設備	39,060	20,860
遺伝子分析・解析システム	〃	21,735	11,610
ATM マルチメディア提示装置	情報処理	39,800	15,940

平成9年度 私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費＜私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費＞）

（単位：千円）

装 置 名	区 分	申請事業費	補助内定額
直線加速器高エネルギーX線による全身・集光照射システム	研究（院）	349,650	159,710

平成9年度 文部省科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））

（単位：千円）

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	内 定 金 額
移植片拒絶反応のメカニズム：自己-非自己の認識と非自己傷害機構の分子生物学的研究	第2生理学・講師 吉 田 龍 太 郎	1,600

トビリシ医科大学長夫妻来学

旧ソビエト連邦共和国から独立した、黒海東岸に位置するグルジア共和国トビリシ医科大学長夫妻が、去る11月2日（日）に来学された。

この訪問は中山太郎法人顧問の紹介により、本学との提携を前提に行われたものである。

本学からは、理事長、学長を始め教員数名が参加し、トビリシ医科大学ヘツリアーニ学長と終始和やかな雰囲気の中で会談を終えた後、本学の施設見学を行った。



平成9年度 医学会秋季学術講演会

平成9年度秋季医学会講演会が、下記のとおり開催されました。

日時 平成9年11月5日(水) 午後2時～5時
場所 臨床第一講堂

[特別講演]

『精神疾患の遺伝生物学的基盤』

神経精神医学教授 米田 博



講演中の米田教授

[ミニシンポジウム]

『芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素(AADC)の構造と機能の相関の解明』

医化学教室 石井 誠 志 他

『新生児慢性肺疾患の発症におけるフリーラジカルの関与について』

周産期センター 荻原 享

『拡張型心筋症のウイルス病因に関する研究』

第3内科学 藤岡 重 和 他

『甲状腺体積の超音波法における正確な測定およびバセドウ病治療におけるその意義』

第1内科学 村上 康 弘 他

同和教育特別講義

同和教育に関する特別講義が下記のとおり行われ、学生および教職員の多数が聴講しました。

日時 平成9年12月17日(水)
午後2時40分～4時10分
場所 臨床第一講堂
演題 医療と人権—精神障害者の法制度から—
講師 国立がんセンター運営図書館長
(前厚生省保健医療局精神保健課長)
吉田 哲彦 博士
(本学非常勤講師)



教室紹介

眼科学教室

— Quality of Vision の 向上を目指して —

眼科学教室は昭和4年3月に牧内正一先生が講師に就任して診療を始め、同年6月に東京帝大卒の有澤潤教授が開講した。昭和7年湖崎清一教授嘱託、次いで牧内正一教授（府立大阪医大卒）が昭和10～15年、江原勇吉教授（大阪帝大卒）が昭和16～20年、戦後再び牧内教授が



復帰して昭和22～46年の長期間、大阪医大眼科の興隆に尽力された。昭和49年8月から、東郁郎（大阪大学卒）が第5代教授に就任し、現在に至っている。

現在（平成9年）の教室は東教授、渡辺診療教授、内海助教授、中島診療助教授、菅澤講師（病棟医長）、徳岡講師（外来医長）、濱田講師、兜坂学内講師、奥学内講師（医局長）、助手3名の陣容で、専攻医42名、臨床研修医14名、大学院3名、研究生3名が教室に所属して、診療、教育、研究に従事しながら30の関連病院眼科を支えている。この23年間、毎年7名（平均）の

新しい入局者に恵まれ、若い力が教室の発展の原動力になってきた。

教室の指導方針は「和而不同」。①各自の長所を伸ばすこと②基本を身につけることをモットーに研修医時代は広い範囲の医学（眼科学）を学び、誠意をもって患者に対し、信頼される医師を目指すよう指導している。好きな言葉は「心をとめてうかがえば 花自ら教えあり（クリスチーナ・ロゼッチ）」や「あなたのランプの灯を今少し高く掲げて下さい。見えぬ人々の行手を照らすために（ヘレン・ケラー）」で、毎年の医学入門（目は心の窓）で新入学生に話している。

教室の診療実績を述べると、先ず外来では年間約5,500人の新患、65,000人の総患者数で、1日平均200人を越す患者（紹介率50%）を一般外来5～6診、6～7の特殊外来で診療している。入院（病棟）では年間約1000人（平均42～43床、稼働率90%以上）を早い病床回転率で診療している。手術件数は学内最多で、年間1500件（白内障860、緑内障85、網膜剥離110、網膜・硝子体手術100、斜視130など）で、年々増加の一途をたどっている。視力が蘇って喜ぶ患者の顔をみるのは何より嬉しいものである。

教室の研究は①緑内障の病態解明②緑内障の早期診断と新治療法③視覚生理・神経眼科学④眼科手術の改良⑤眼血流と視機能などが挙げられる。基礎的にはプロスタグランジン、エンドセリン、NO、 β 遮断薬、 α_1 遮断薬、 Ca^{2+} 拮抗薬などの眼圧、眼循環、視機能への影響を研究し、新薬の開発にも貢献している。臨床的にはレーザー・スペックル眼底血流計、自動静的視野計、角膜形状測定装置、無散瞳立体眼底撮影機、赤外線瞳孔計などが導入されて診断精度を向上させている。手術も白内障はほとんど超音波乳化吸引装置を用いて小切開・無縫合で眼内レンズを挿入し、網膜や硝子体病変も硝子体カッターや眼内レーザーを駆使して革新してい

る。

教室では米国タフト大学（シュワルツ教授）、東大（新家教授）と眼圧下降薬と眼血流に関する

共同研究を進めてきたが、本年度からは慶大（小口教授）と緑内障の遺伝子研究も始めている。（文責 東）

海外出張記

— 第4回アジアオセアニア 頭蓋底外科学会に出席して —

脳神経科学助教授

長澤 史朗

11月7-12日の間、パキスタンのイスラマバードで開催された第4回アジアオセアニア頭蓋底外科学会に参会しました。この学会にジョイントした他の2つの集まり、アジア脳神経外科コンGRESS（ACNS）の発足会議と第2回アジア脳神経外科女医会への参加を兼ねての旅でした。

(1) 頭蓋底外科学会には約250人が参会し、日本からは20人弱、欧米からは10人弱が来ていました。アジア諸国は頭部外傷、感染、巨大化した脳腫瘍などの発表が多く、社会の現状や自国の医療を反映しているようでした。しかし内視鏡下の脳下垂体腫瘍摘出術（香港、名札は“China HongKong”でした）や体外補助循環装置を利用した低体温下手術（台湾）など斬新な発表もありました。私は“頭蓋底部動脈瘤の手術成績”を話しました。



Raja会長（後列左から2人目）、
枚方市民病院の柳川先生（前列左端）

(2) アジアの若い脳神経外科医に勉強してもらう国際セミナーが日本脳神経外科学会の後援のもとで開催され、第3回セミナーは太田教授が会長で、1998年10月に臨空タウンで開催予定です。今回イスラマバードの発足会議で第2回ACNSの会長に太田教授が指名されました。第1回ACNSがインダス文明発祥の地で開催され、第2回が日出国の大阪医大で開催されるのは、アジアの時代の幕開けとして印象的な出来事です。“アジアの若い脳外科医の育成”の重要性は誰もが認めるところですが、資金・各国の国内問題・北朝鮮問題など、種々の課題があります。大阪医大関連諸機関の御支援をお願い申し上げます。

(3) 第2回アジア脳神経外科女医会に、ゲストの一人として参会しました。アジア全体で約200人、日本では160人の女医が脳外科を専攻しており、それぞれの国の問題が発表されました。私は“大阪医大では4人の女医が活躍していること、脳外科では新しい分野（血管内手術、内視鏡手術、ガンマ治療、神経科学研究、脳ドックなど）を拡大させており、性別に関係なく実力をともなった多くの人的資源が多様化した分野で要求されている”ことを述べました。また西ドイツのサミー教授は“自分を取りまく人達も共に満足できる”重要性を強調し、さすが成熟した欧州の重鎮と感心させられました。社会のあらゆる方面で人の生活は多様化しています。この中で性差の問題は多様化の一要素として、その比重は相対的に減少していくように思えます。

パキスタンの緯度は日本と同程度で、時差で4時間程の距離ですが、航空便の接続が悪く帰りは24時間以上かかりました。議事の進行は非

医学の散歩道

「なぜ皮膚泌尿器科なのか」

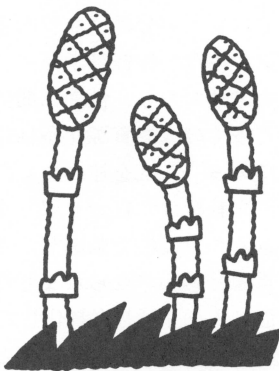
泌尿器科学教授

勝岡 洋治

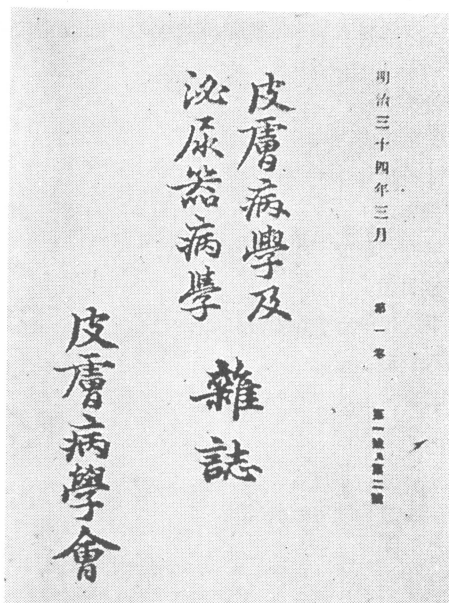


インド、イラン、ギリシャの文化が見られる
タキシラ遺跡

能率で時刻の観念が乏しいと思いきや、タクシーの運転は恐ろしい限りでした。夜明け前にも、また出発前の機内でも唸りのようなイスラムの祈りが響き、お酒の入手も難しいようでした。いっぽうこれらの国から予想以上に多くの医師が日本や欧米に出ています。昔ながらの医学界や社会習慣のためか、現在のところ若い医師は活躍の場を得にくいようですが、彼らは非常に積極的で高度な技術を習得できる基礎をもち、近い将来自国の脳外科を担うことになるでしょう。忙しい時間軸と悠久のそれとが混在している、遙かに遠い不思議な世界でした。



皮膚泌尿器科の看板を掲げている医療機関をよく街中で見かけるが、この奇妙な結びつきに疑問を挟む人はいない。むしろ一つの診療科と考えている人が少なくない。洋の東西を問わず世界中のほとんどの国では泌尿器科は外科の専門分野として独立しており、日本にのみ皮膚泌尿器科という特殊な結合が成立したのは明治20年代の事情によると説明されている。東大において教鞭をとっていた Scriba 博士の下で外科学を学んでいた土肥慶蔵氏が皮膚科学の勉強のため欧州留学を命ぜられ、5年後に帰国して1898(明治31)年に皮膚科(梅)毒学教室を設けたことが皮膚科と泌尿器科の結合を生んだとされている。土肥博士は欧州留学時代に各地を歴遊し、医学史上に輝かしい名声を残している皮膚科学および泌尿器科学の碩学に教示を得た。これが両科混合の背景として挙げられている。いわゆる土肥博士勤勉説である。別の説では、泌尿器科が性器を対象とすることが、皮膚科と泌尿器科という今日では全く別の専門を構成する二つの分科が一つの診療科を構成したと説明されており、当時世界的に猖獗をきわめた性病が介在したことは既知の事実である。九年前に或る皮膚科の大学教授より1897(明治30)年発行のアメリカ版皮膚科学の雑誌の創刊号(復刻版)を見せていただいた。雑誌名は邦訳すると「皮膚科学及び泌尿器科疾患」であり、セント・ルイスで発行された。両科の疾患に関する論文が掲載され、アメリカにも両科の蜜月時代があったことを想像させる。さらに1988年の皮膚科学術雑誌にはアメリカ版皮膚科専門誌の誕生と変遷の歴史が紹介されている。一部抜粋すると、1882(明治15)年に最初の月刊誌「皮膚と性病」が登場し、4年後には「皮膚と泌尿器疾患」と改名されている。この雑誌は短命で1903(明治36)年以降は皮膚科学会が一切



(日本) 皮膚病學及泌尿器病學雜誌
第1卷第1号及2号の表紙
(1901年3月)

の権限をもち独自の雑誌発行に当るようになった。いずれにしてもアメリカにおいては日本のように皮膚泌尿器科という特殊な結びつきはなかったにせよ、両科が一つの雑誌を共有するほど密接な関係にあったことは興味深い。一方、ドイツでは今でも皮膚科と泌尿器科を標榜して

いる開業医がいると聞く。土肥博士も投稿していたドイツ版皮膚泌尿器科専門誌がその昔存在していた。日本が明治維新により近代国家建設のなかで医学の分野ではドイツ医学を積極的に取り入れたので必然的に両科併合を生み出したとする説明はよく耳にするが、事実かどうか疑問が残る。皮膚科とは関係がなかったのはフランスぐらいであり、そのため19世紀から20世紀当初にわたり、フランスは泌尿器科学の指導的立場にあった。皮肉にも日本において泌尿器科学が飛躍的に発展したのは皮膚科からの分離・独立後である。第二次世界大戦後の揺籃期を經過して今日の爛熟期を迎え、その中に身を置く我々昭和生まれの泌尿器科医は幸せ者だと実感しているが、二十一世紀を間近に控え、泌尿器科学の将来像は見えていない。ところで私事であるが、私が泌尿器科を専攻するつもりだと医学部卒業間際に両親に伝えたとき、「そうか」と頷き理解を示した町医者のお父さんに対し、「なんでそんな汚い科を選んだ」と眉をひそめた母親だが、皮膚科の大学教授になった弟共々息子達にとって、今では強い味方である。そして兄弟揃って皮膚泌尿器科の開業を楽しみにしていた父親はすでにこの世にはいない。

関連病院長会議開催

平成9年度大阪医科大学関連病院長会議が11月5日(水)午後5時30分から、たかつき京都ホテルにおいて、藤本学長、佐々木病院長および各教授と、各関連病院長(65病院)が出席して

開催されました。

今回は、京都大学経済学部教授西村周三先生をお招きし、特別講演『21世紀の医療経済展望と今日の問題について』を実施しました。



佐々木病院長の挨拶



会議終了後の懇親会

平成9年度実験動物慰霊祭

平成9年度実験動物慰霊祭が、関係者および教職員約100名の参列のもと、下記のとおり執り行われました。

日 時 平成9年12月6日(土)

午後1時～2時

場 所 講義実習棟・第一講義室



年賀交歓会の開催について

恒例の年賀交歓会が1月5日(月)午後1時から第9会議室において、理事長、学長、病院長をはじめ、教職員約100名が出席して開催されました。



主要会議とその主な議題

11月1日から1月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

〔理事会〕

(11月11日)

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について

2. 大阪医科大学大学院学位規程の一部改正について

—報告事項—

1. 監事報告

(11月29日)

—報告事項1—

1. 平成9年度上半期収支状況報告

—審議事項—

1. 平成10年度予算編成について

—報告事項2—

1. 学事報告

学長報告

病院長報告

看護専門学校長報告

(12月16日)

—審議事項—

1. 寄附金及び学債の発行について

2. 病院経営検討委員会(仮称)の設置等について

(1月27日)

—審議事項—

1. 寄附金及び学債の発行について(継続審議)

2. 病院経営検討委員会(仮称)の設置等について(継続審議)

—報告事項—

1. 永年勤続表彰について

〔評議員会〕

(11月29日)

—報告事項1—

1. 平成9年度上半期収支状況報告

—審議事項—

1. 平成10年度予算編成について

—報告事項2—

1. 学事報告

学長報告

病院長報告

看護専門学校長報告

〔教授会〕

(11月12日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)

2. 平成9年度奨学生(日本育英会、本学、仁泉会)の推薦に関する件

3. 大学葬について
4. グルジア国トビリシ大学（国立）との協力問題について

（11月26日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 附属病院長選挙に関する件
3. 図書館長選挙に関する件
4. 大阪医科大学病理解剖受託規程（案）に関する件
5. その他
 - 1) 大学葬について
 - 2) グルジア国トビリシ大学（国立）との協力問題について
 - 3) 平成10年度入学試験当日の総監督及び同補佐の委嘱について
 - 4) 平成10年度入学試験当日（2月10日）の一部授業休講について
 - 5) 内科学シラバス作成委員会委員の依頼について
 - 6) シラバス作成について

（12月10日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 附属病院長選挙に関する件
 - 1) 附属病院長選挙管理委員会委員の委嘱について
3. 図書館長選挙に関する件
 - 1) 図書館長候補者推薦委員会委員の委嘱について
4. 大阪医科大学病理解剖受託規程（案）に関する件
5. その他
 - 1) トビリシ大学との協力問題について

（12月24日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 附属病院長選挙に関する件
3. 図書館長選挙に関する件
 - 1) 図書館長候補者推薦委員会委員長の委嘱について
 - 2) 図書館長選挙管理委員の委嘱について
4. 第4学年進級合否判定に関する件
 - 1) 第4学年前期試験の成績判定について
 - 2) 第5学年仮進級者の前期試験の成績判定について

5. その他

- 1) 教員の教育に対する評価について
- 2) 入試制度と財政基盤について

（1月8日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 附属病院長選挙に関する件
3. 図書館長選挙に関する件
 - 1) 図書館長選挙管理委員会委員長の委嘱について
 - 2) 図書館長選挙について
4. 第2学年進級合否判定に関する件
5. 第6学年進級合否判定に関する件
6. その他

- 1) 中山国際医学医療交流センター長及び運営委員の委嘱について
- 2) 平成10年度入学試験当日の監督について
- 3) 教育実績の記入フォーマット（案）について

（1月21日）

1. 人事に関する件（助教授の任用他）
2. 図書館長選挙に関する件
3. その他
 - 1) 平成10年度医学部医学科入学試験について

〔大学院医学研究科委員会〕

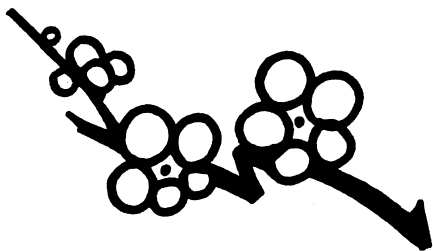
（11月12日）

1. 研究生の願出に関する件（11月26日）
1. 学位論文審査結果に基づく合（可）否決定に関する件（12月24日）
1. 学位論文提出のための語学試験に関する件（1月8日）
1. 大学院入学試験・論文提出のための外語学試験（語学試験）の判定基準について（1月21日）
1. 外国人の外国語（語学）試験の取扱について

主な行事日程表

2月1日から4月30日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 2月1日(日) 第6回医学教育ワークショップ
(1月30日から)
看護専門学校第一看護学科入学
試験
- 3日(火) 同上
- 4日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 5日(木) 大学院医学研究科入学試験
- 6日(金) 同上
- 10日(火) 医学部入学試験(於:関西大学)
理事会
- 20日(金) 教授会・大学院医学研究科委員会
医学部学科試験合格者発表
- 22日(日) 第87回看護婦国家試験
- 24日(火) 理事懇談会
- 25日(水) 吉津度先生胸像除幕式
- 3月2日(月) 医学部入学試験(学科試験合格者)
- 3日(火) 看護専門学校卒業式
教授会・大学院医学研究科委員会
医学部入試合格発表
- 4日(水) 大学院医学研究科入試合格者発表
- 5日(木) 第3学年春季休業
- 10日(火) 理事会
医学部合格者入学手続締切
- 12日(木) 第4学年春季休業
- 14日(土) 第2学年春季休業
- 18日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 21日(土) 第5学年春季休業
- 21日(土)~22日(日)
第92回医師国家試験
- 24日(火) 理事懇談会
- 25日(水) 医学部・大学院医学研究科卒業
証書・学位記授与式
- 26日(木) 評議員会
- 30日(月) 第87回看護婦国家試験発表
- 31日(火) 理事会
- 4月2日(木) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 3日(金) 入学宣誓式(医学部・大学院)
- 4日(土)~6日
第1学年オリエンテーション
- 6日(月) 第2学年授業開始
- 8日(水) 看護専門学校入学式
- 13日(月) 第6学年臨床実習開始
- 14日(火) 理事会
- 15日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 22日(水) 第92回医師国家試験発表
- 28日(火) 理事懇談会
臨床研修医オリエンテーション



保健管理室からのお知らせ

++++ 平成9年度 放射線業務従事者健康診断（前期）を終えて ++++

労働安全衛生法電離放射線障害防止規則において放射線業務に常時従事する労働者で管理区域に立ち入るものについては、雇入れの際またはその業務に配置替えの際、血液検査6月以内ごと（皮膚検査については、3月以内ごと）に1回定期的に健康診断を行うことを義務づけられています。

法規改正により健康診断で省略できる項目もあるので、安全委員会での審議事項として提案する予定です。

電離放射線健康診断結果報告書は所轄労働基準監督署長に提出するようになっておりますので必ず受検して下さい。

・本学健康診断年間予定

血液検査 6月、12月

皮膚検査 4月、7月、10月、1月

検査用紙は各所属担当者宛に登録者全員分を封筒に入れてまとめて配布しています。結果は封筒に入れて保健管理室まで返して下さい。

また担当者の変更がありましたら必ず保健管理室までご連絡下さい。

フィルムバッチ着用者で放射線業務をされてない方は、速やかに機器共同利用センター RI 実験室、保健管理室まで届けて取消しの手続きをお願いします。

放射線業務従事者健康診断（平成9年度 前期：4～9月）

保健管理室

血液検査受検状況

部署 内訳	放射線	看護部	1 内	2 内	3 内	脳 外	胸外	消 外	整 外	産 婦	泌 尿	小 児	輸 血	皮 膚	神 経	麻 酔
対 象 者	75	43	32	24	16	6	5	8	36	24	17	20	1	3	11	1
受 検 者	70	43	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
受検率(%)	93.3	100.0	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
有所見者	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要治療者	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
部署 内訳	さわらぎ	病 態	中 検	1 病	2 病	医 化	薬 理	1 解	2 解	微 生	機 器	法 医	リ ハ	口 腔	耳 鼻	
対 象 者	5	2	2	3	2	13	9	1	5	3	1	6	2	1	3	
受 検 者	4	2	2	1	1	4	5	1	3	2	0	0	0	0	0	
受検率(%)	80.0	100.0	100.0	33.3	50.0	30.8	55.6	100.0	60.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
有所見者	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
要治療者	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	

皮膚検査受検状況

内訳	部署	放射線	看護部	1内	2内	3内	脳外	胸外	消外	整外	産婦	泌尿	小児	輸血	皮膚	神経	麻酔
対象者	75	43	32	24	16	6	5	8	36	25	17	21	1	3	11	1	
受検者	69	43	18	0	0	0	5	8	36	23	0	20	0	3	10	0	
受検率(%)	92.0	100.0	56.3	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	92.0	0.0	95.2	0.0	100.0	90.9	0.0	
有所見者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
要治療者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

内訳	部署	さわらぎ	病態	中検	1病	2病	医化	薬理	1解	2解	微生	機器	法医	リハ	口腔	耳鼻
対象者	5	2	2	3	2	13	9	1	5	3	1	6	2	1	3	
受検者	5	2	2	3	2	8	9	0	5	3	0	6	2	0	0	
受検率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	61.5	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
有所見者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
要治療者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

血液検査の結果、貧血6名、白血球増多1名、白血球減少1名 所見がみられましたが、電離放射線障害によるものではなく要治療となった方はいませんでした。

平成9年1月1日から11月30日までの教職員の保健管理室利用状況をお知らせします。

教職員の場合学生と比較すると応急処置やベット利用状況は少ないですが、頭痛、腹痛等で*OTC薬の利用がみられるようになってきています。

時々、診療時間内に病院受診ができず困った等の声がありますので、気軽にご利用下さい。

*OTC薬 (Over The Counter カウンターごしに気軽に購入できる薬という意味) : 一般薬、市販薬とも呼ばれるもので、正確には、一般用医薬品です。

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
定期健康診断	0	0	0	0	0	827	0	0	0	1186	0	2013
採用時健診	5	5	10	2	80	2	5	5	43	50	10	217
各種検査	血压	6	7	11	2	1	3	19	6	50	54	169
	検尿	5	5	10	4	1	4	65	3	35	43	183
	採血	8	5	11	8	9	17	8	7	38	51	174
	聴力検査	5	5	10	0	0	1	6	1	43	48	127
与薬	7	4	1	0	3	3	6	4	7	2	6	43
応急処置	擦過傷	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
	打撲・捻挫	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	5
	頭痛	0	0	0	0	0	0	1	1	3	1	8
	発熱	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	生理痛・腹痛	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3
予防接種	44	0	0	241	0	142	74	0	0	13	13	527
保健相談	0	1	0	2	0	0	0	4	0	0	0	7
カウンセリング	0	1	2	0	4	2	0	0	0	0	0	9
診断書発行	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
各科外来紹介	1	1	0	1	0	0	1	2	1	1	0	8
ベット利用	1	1	1	0	3	0	0	0	5	0	1	12
合計	85	36	56	260	102	1001	187	40	227	1450	70	3514

意外に知られていない「水で」の服用

粉剤、錠剤、カプセル剤とさまざまな剤形の内服薬は、「コップ一杯（約150ml）の水か白湯で服用されること」を前提としていますが、意外に知られていません。なぜ「水か白湯」かというと、錠剤が溶けやすく、胃腸粘膜への刺激を軽減し、吸収をよくするためです。水を用いないと、薬物の濃い状態が粘膜に強い刺激となり、たとえば食道内に停留して潰瘍の原因になったりします。必ず水といっしょに服用し、薬が食道内に停留しないよう、しばらくは横にならずにいてください。



大阪医科大学俳句会(十/十一/十二月)

- | | |
|----------------|-------|
| ネバーキブアツブ小錦の神無月 | 塚本 務人 |
| 駅弁に秋詰めにけり丹波路 | 今井 雄介 |
| 一見の客新月に消えにけり | 同 |
| 減塩の醤油は買はぬ神無月 | 中川 一成 |
| 建売のちらし嵩張る文化の日 | 同 |
| 大切なものから捨てる冬至かな | 梶野香代子 |
| 時雨虹かつぎ庭師の枝算段 | 同 |
| もみぢ羅漢笑つて飼ひぬ木喰虫 | 奥田 筆子 |
| 七五三児等前列に坐るミサ | 吉田 孝江 |
| 赤のまま日和は家計膨らまず | 飯塚 久子 |
| 初時雨伊賀には一度行つたきり | 山崎 隆司 |

たかつき散策

— 安満宮山古墳 —

本学の北西部に位置する安満宮山古墳は昨年発掘が行われ、古代史を揺るがす大きな発見がありました。それは副葬された遺物の中に「青龍三年」方格規矩四神鏡などの貴重な品々が出土したことです。

今年1月には、奈良黒塚古墳で大量の三角縁神獸鏡が発見されました。安満宮山古墳に続く黒塚古墳の出土により、邪馬台国畿内論が大きくクローズアップされています。

邪馬台国論争については古代史最大のロマンのひとつであり、三島の地でこのような卑弥呼に繋がる資料が現われたことは、安満遺跡を始め、多くの古墳群が点在しているこの辺りが、古くから日本の政治・文化の拠点のひとつであったことが伺われます。



古墳から本学方面を望む

本学は昨年創立70周年を迎えました。安満宮山古墳の発見は、歴史の重みと、未来への責任を標す機会を私達に与えてくれたような気がします。

資料提供：高槻市立埋蔵文化財調査センター



「青龍三年」方格規矩四神鏡

大阪医科大学学報 第35号

発行年月	平成10年2月
発行	学校法人 大阪医科大学
発行責任者	事務局長 多田 數 義
編集・発行	総務部 庶務課